



ちばりは ニュース

2024年11月 発行 第58号

〒266-0005 千葉県緑区誉田町 1-45-2

TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857



ホームページ



chiba-reha.jp

X



CHIBAREHA

Instagram



CHIBAREHA

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

— 私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

心躍る夏の思い出 愛育園より

8/21

“たのしくインテット”と
わくわくサマーコンサート



この日は、子ども劇場千葉県センターが実施している「病気や児童福祉施設の子どもが主体的に創造しワクワクするQOL向上あそび体験交流事業」として“たのしくインテット”の方々をお招きしてセンター大ホールにて「わくわくサマーコンサート」の公演を行いました。ステージでは、ピアノやトロンボーン、フルートなどの楽器を使って、ディズニーソングや情熱大陸の曲やマツケンサンバなどを演奏をしていただきました。生演奏の素敵な音色を聴いてリラックスしたり、大きな音の迫力に大興奮したり、見たことのない楽器には興味津々な様子でした。参加した子どもたちはタンバリンや手作りのマラカスなど楽器を曲に合わせて鳴らしたり、振り付けと一緒にやってみたりと、皆で盛り上がるとても楽しいステージとなりました。1公演40分余りのステージでしたが、わくわく楽しんでいたアツという間の時間でした。

8/23

第31回 リハビリテーションセンター夏まつり



コロナ前はセンター全体で開催されていた夏まつり…今年も昨年度同様、総合療育センターの利用者さん限定でのセンター夏まつりとなりましたが今年度はまつりの参加条件が少し緩和され、ご家族にも参加していただきました。“ワッショイ～ワッショイ”と威勢の良い掛け声とともにお神輿が練り歩きながらのスタート。盆踊りでは東京音頭や千葉音頭、そして子どもたちの大好きなドラえもん音頭、締めくくりは♪マツケンサンバ♪を和太鼓の音に合わせて、みんなで楽しく踊りの輪を作りました。模擬店では、千本くじやあみだでGO! フォトスポット記念撮影などを楽しみました。楽しいお祭りの雰囲気に入れ、子どもたちの元気な笑顔がたくさん見られた一日となりました。



社会生活の自立度評価指標「S I M」を学ぼう

令和6年9月6日（金）千葉市美浜文化ホールにおいて、S I M研修会が開催されました。千葉県内の生活訓練事業所、また全国障害者自立訓練事業所協議会関東ブロックの会員施設より、多くの方々にご参加いただきました。



S I Mとは？

S I M (Social Independence Measure) は「社会生活の自立度評価指標」であり、障害者総合支援法における自立訓練（機能訓練・生活訓練）利用者の社会生活の自立度を測るために開発されました。令和6年度障害福祉サービス等報酬改定においては、標準化された支援プログラムの実施とS I Mに基づく効果測定を行い、これらの内容を公開している事業所を評価することとなりました。

S I M講義

かがわ総合リハビリテーション事業団の小島様を研修講師にお迎えし、S I Mの目的や導入の意義、S I M評価の仕組みと採点方法等について学びました。自立訓練では、事業所により設備や人員配置、地域性や実施しているプログラムも異なるため、それぞれの事業所の環境に合わせて、評価基準や評価環境の設定が必要であること、S I Mの活用により各事業所がプログラムを改良するなど支援の質が向上し、同じ方向を向いて、連携や協力を深めることが自立訓練の存在価値を向上させる、と熱いエールをいただきました。



ディスカッション

S I M導入に向けて、各事業所での取り組み状況や課題について事例報告をしていただきました。報告者は、かがわ総合リハビリテーション事業団の高木様、神奈川県総合リハビリテーション事業団七沢自立支援ホームの和田様、横浜市総合リハビリテーションセンター障害者支援施設の田中様、千葉リハビリテーションセンター更生園からは吉田自立支援科長が報告者として登壇しました。

各事業所では既に提供している支援プログラムを活かしながら、新たな評価環境を設定するなど試行錯誤しながら評価基準を作成し、評価試行を行っています。情報交換を行いより効果的にS I Mを活用していきたいと思っております。



千葉県リハビリテーション支援センターが取り組む県内の“つながり”づくり

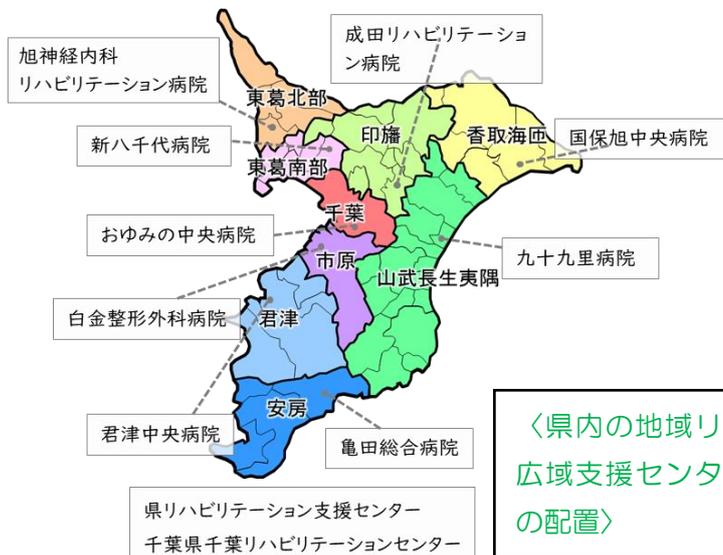
当センターでは「千葉県リハビリテーション支援センター」として、誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、県内の病院や施設・事業所などの関係機関同士の“つながり”づくりに取り組んでいます。

千葉県リハ支援センターの役割

- 地域リハ広域支援センター、ちば地域リハ・パートナーとの連携
- 保健・医療・福祉・行政に関する施設や事業所同士のつながりづくり
- 専門職人材の研修
- 県庁、市町村の事業サポート

有事における地域リハビリテーション行動指針策定事業をはじめました

令和6年度から地域のつながりを活用して、災害や社会的感染症流行などの有事を乗り越える取り組みを始めました



〈県内の地域リハ広域支援センターの配置〉

県リハ支援センターや千葉県の地域リハビリテーションの詳細は[県庁ホームページ](#)をご覧ください。



人材育成部より、新規採用職員研修のご紹介

センターでは、新規採用職員（前年度中途入職者を含む）の皆さんに対して、1年間を通し、多職種で同期の仲間と共に学び、コミュニケーションやリハビリテーションの基本を理解することを目的とした研修を実施しています。

本研修は、多職種で構成された人材育成部員が企画・運営しています。

毎年、春（4月初め）に業務に就く前に必要な知識を学ぶ「新任職員研修」、夏に対人関係を築くためのスキルを習得する「コミュニケーション研修」や利用者さんへの対応の仕方を学ぶ「接遇研修」、冬に1年間を振り返り、自己の成長を実感する「フォローアップ研修」を実施します。

毎年、入職当初は緊張気味であった皆さんが、研修を受けた後には、多くの笑顔とコミュニケーションが見られます。また、1年間をかけて、業務だけでは学べない社会人・専門職としての基本姿勢を学んだことで、多職種連携の大切さと一年間の成長を感じています。



新任研修（車椅子操作）



コミュニケーション研修



接遇研修



フォローアップ研修

薬剤部 部長 坂場さんが「文化の日千葉県功労者表彰」を受賞されました

当センターの薬剤部薬剤部長、坂場香江子さんが、「文化の日千葉県功労者表彰」を受賞されました。そこで、坂場さんにお話を伺いました。

● 受賞されたご感想は？

お話をいただいた時は正直、私が？という気持ちが大きかったです。それと同時に家族や周りの方々に支えられて続けてこられたという思いが強くなりました。

● お仕事をされていて今までで一番嬉しかったことは何ですか？

薬を介して患者さんのお役に立てた時ですが、自分一人の力や考えだけでは出来ることは限られません。同僚、多職種で協力して予想以上の成果が出た時です。

● これからの目標は何ですか？

月並みですが健康に気を付けて仕事を続けたいと思っています。また表彰式では自然に恵まれいろいろな食材にも恵まれた千葉県について再認識しました。食べ歩きや旅行にも行きたいです。



児童発達支援センター副看護師長の内村さんが「千葉県看護功労者知事表彰」を受賞されました

児童発達支援センター 副看護師長 内村静枝さんが、「千葉県看護功労者知事表彰」を受賞されました。そこで、内村さんにお話を伺いました。

● 受賞されたご感想は？

長い間看護の仕事に携わり、幾度となくくじけそうになりましたが、家族をはじめ職場の皆さんのご協力、利用者とその家族からの温かい言葉に支えられ、乗り切ることができました。そして、このような素晴らしい賞が頂け感謝の言葉しかありません。

● お仕事をされていて今までで一番嬉しかったことは何ですか？

利用者とその家族のために多職種で連携し、目標に向かってそれぞれが専門性を発揮し、目標達成したときは大きな喜びを感じることができました。同時にチームで働く事の素晴らしさを学ばせていただきました。

● これからの目標は何ですか？

人と関わる「看護」は、IT化が進んでも人にしかできない素晴らしい仕事だと思います。これからも健康に注意し、できる限り看護の仕事に携わり続けることで、微力ながら社会に貢献していきたいと思っています。

